

発言者	発言内容
事務局	(資料 1 に基づき、愛知県環境学習等行動計画 2030 実践事例集「学びを行動につなぐサポートBOOK」の説明。)
千頭会長	事例集(案)について、今後の活用方法をメインで御意見をいただきたい。学校、地域、家庭も一部あると思うが、それぞれの場面を想定してどうか。住民自治、自治振興の部局にも配る予定とのこと、地域で使っていただくにあたり、市町村で御覧になられた場合、どんな活用のアイデアがあるか。
岩井委員	<p>春日井市として色々な環境学習等を行っているが、目的、効果とか必ず振り返りをしてしている。事例集(案)のようにすべて書き出して、表のようにすることは整理しやすいし、今自分が行っている事業がどういう効果があるか、どう改善していくのかということを見ていく時に、参考にさせていただきたいと思っている。</p> <p>ただ、第三者にどういう風に活かしてもらおうかを考えると難しい。自治体とか学校とか色々な環境学習を行う際に事例集(案)の5つの事例の中から関連する効果がある例をチョイスしていただくのには役に立つと思われる。そうした場合、もう少し事例がたくさんあるといいのかなと思っている。</p> <p>この事例集(案)を拝見させていただき、第三者に展開するために、自分でどのように使っていけばいいのか悩んだ。</p>
千頭会長	かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議の市民団体には配っていただきたい。事例集(案)では具体的に5つの事例を出している。例えば、この5つの事例に相当するような事例をみんなで出し合うところからスタートして、これはこの事例に近いよね、というところからつなげていくような使い方をしてはどうか。
岩井委員	<p>環境まちづくりパートナーシップ会議の市民団体には配布する予定。</p> <p>環境アカデミーでは、新海委員に講師として参加していただいている。3年間実施してきたが、講座を受講しただけで即、環境学習のリーダーになるのは難しい。受講された方には春日井市における事業の「エコワールド」などの色々な事業において、ボランティアスタッフとして参加していただいている。今年度は愛知県地球温暖化防止活動推進員としてアカデミーを卒業した人が新規で6人登録された。色々な効果が出ていると思われる。</p>

<p>新海委員</p>	<p>環境アカデミーは三年間やらせていただいたが、5回目を担当しており、1～4回の講座のふりかえりに事例集（案）のワークシートを活用すると、それぞれの講座の成果が明確になるのではないかと。是非活用していただけたらいい。第5回の講座では講座全体で受講生に何を学んだか、どんなことがやりたいか、などふりかえりを行う。講師側だけではなく、受講生側である学習者が自らの成長を確認するシートとしても使える。SDGsにもつながっているのもよりよい。</p> <p>県事業である「あいち未来クリエイト部」の事業でも、ワークシートを作成することができる。私が担当している木曾川高校や海翔高校の環境学習プログラムを活用した講座でもこのワークシートを活用して進めることができるのではないかと。コーディネート事業にも、ワークシートを使うなどして、県事業全体で統一してもいいのではないかと。</p>
<p>千頭会長</p>	<p>事例集（案）に載っているのは事例であり、ここに書いてあることを教えるという冊子ではない。「五つの力」を育むために、P.6のワクワク演出ポイントが大切であるということ、事例を通じて伝えている。</p>
<p>古鷹委員</p>	<p>自治体とつながりが強いのは学校とかコミュニティーである。東浦町も自然環境学習の森というのがあり、自然環境の保全に取り組んでいる方に事例集（案）をお配りして、自然環境だけでなくの色々な環境に興味をもってもらえればと思う。また、「東浦町ごみの分別と減量をすすめる会」の関連する団体にも事例集（案）を配ることによってなんらかの環境の取り組みの輪ができるといい。</p> <p>また、東浦町では4月からごみの有料化が始まることで、住民説明会を行った。参加率は2割程度で、環境のことを考えるということで皆さんには納得いただけているので、そういう方にアクションが起こせばいいのかと考えている。</p>
<p>大鹿委員</p>	<p>事例集（案）のワークシートの作成はゼロベースでは難しい。それができるのは、大学生くらい。学校の先生ではどうかと考えたが、総合学習のリフレクション用に使ってもらえばいいのではないかと。総合学習で実際に何が子どもに身に付いているのかが理解できていないので、逆に言うとこれでリフレクションさせて、先生が気付くことで今の活動が実は「環境」だったり「ESD」になるのかなと意識づけにできる。県など自治体の研修で、実施した総合学習のネタを持ってきてもらい、整理しながら、見方を考えさせるという使い方がある。ただ気を付けないといけないのは、県独自の五つの力にしているが、学習指導要領では「資質能力の三つの柱」となっているので、「五つの力」にこだわらないで、どんな資質能力を育みたいかを明確にして、組み立てていくことが大事だよという形で伝えていく。</p>

千頭会長	事例集（案）9ページ「事例2」については4年生で使える。下水処理施設に行くということには限らないけれど、初めて施設に行ったということやこういうふうに整理ができるという使い方ができる。
浅野委員	<p>事例集（案）はかなりの文字数の冊子に思う。余程熱い思いの人でないと読み込むのは負担感がある。「愛知県環境学習等行動計画2030」をしっかりと読んで、そのあとに事例集（案）を活用されるのが有効と思われる。やはり、研修が効果的だと思う。</p> <p>私が関わっているアイシン環境学習プログラムは毎年夏休みに先生を対象にした講座があるので、そのような場で事例集（案）を配り、なおかつ理想だが、愛知県の担当者が、これを編んだねらいや活動に向けての熱い想いを伝えるといいのではないか。また、もりの学舎のインタープリターもそれぞれ自然観察指導員であったり夏休みの別の科学実験などの講座を持っている方もいるので、インタープリターへの研修を行ったり、大鹿委員からの提案でもあるが、教員の研修における活用や、自治体の環境担当の方々向けなど、事例集（案）を上手く活用するためには何がポイントかが分かる様に、配布して終わりではなくて何らのレクチャーが必要なのかなとも思う。</p>
松岡委員	内容からみると、幼稚園保育園関係とはレベルが違うように思う。だからと言って関係ないというわけではないが、具体的に保育園幼稚園についてどのような使い道を考えているか、配布についてもどうされるかお聞きしたい。
事務局	幼稚園保育園はまさに子ども主体で、学習者の中にあるものを引き出すことを基本として保育が行われているので、幼稚園保育園への事例集配布は必要がないと考える。
松岡委員	それでいいと思う。
岩井委員	<p>実際に事例集（案）のワークシートをやらないといけない、作らないといけないと思うとかなり負担を感じる。すべての事業にこれを活用するとかなりの労力が必要。</p> <p>事例集（案）を配布するときに、受け取った方が負担を感じないような説明やワークシートの作り方についての御助言をいただけるといいのかなと考える。これを唐突に送られてきても見ないと思う。</p>

新海委員	<p>ワークシートはダウンロードできるのか。説明を丁寧にしないと使い方が難しいのではないか。ワークシートを全部埋めようと思うと大変なので、全部埋めることを目的とせず、プロセスにおいて少しずつ書き加える形で進められてもよい。</p>
千頭会長	<p>事例を見ながら、それぞれの場面、場所、組織で、今関わっている活動やこれからやろうと思っている活動をまず一つのワークシートで整理を試みる。整理をしたら効果の把握の仕方などに気付く。サポートブックは教科書のように右から左に読んでいくという物ではないことを上手く説明できないといけない。</p> <p>皆さんが色々な場所でそれぞれワークシートを作り、それが少しずつ蓄積されていけば、県の財産になる。</p>
大鹿委員	<p>事例集にはワークシートの様式の見本が載っているが、白紙様式がない。ダウンロードできるようにしてほしい。</p>
事務局	<p>白紙様式をダウンロードできるよう、WEBに掲載予定である。</p>
千頭会長	<p>環境活動、環境学習をどのように構造化するか、どう組み立て直して、どう見直すのかという意味で、ワークシートの様式を活用して使ってほしい。</p> <p>愛知県でも「あいち環境塾」など様々な事業を行っている。そうした事業で一度使ってみるといい。環境学習の仕組みを持っている市町村でも、一つの活動でいいので再整理をして、次のステップアップにつなげてみませんか？必要であれば県がアドバイスに行きますよ、というのも含めて御案内いただければと思う。</p>

事務局	(資料 2～4 に基づき、主な環境学習事業の平成 30 年度実施状況及び平成 31 年度実施内容についての説明。)
千頭会長	資料 4 の裏に件資源循環推進課の事業「カップの清吉」が載っている。もう 4 年くらい行われている事業で、このほかにカードゲームもある。なかなか環境部内の他課の事業は協議会には上がってこないが、上手くつなげていけるといい。
新海委員	<p>「あいちの未来クリエイト部」に参加している高校は、自然科学分野をテーマにしている活動が多いので、新規事業の「未来へつなぐ「国連生物多様性の 10 年」せいかりレー」に、「あいちの未来クリエイト部」の高校や高校生が参加するなど、連携させてできるといい。</p> <p>また、幼稚園から大学生、一般まで多様世代向けの事業ができています。特に高校生・大学生の取組や成果は愛知の特色であり力だと思ふ。今後、愛知県の世代ごとの環境学習がつながることによって、人づくりの効果がより生じるように、次のステップとして何かできるとよい。</p> <p>資料 3 について、「五つの力」で評価をしているのは分かりやすい。今年度はこれでいいが、次年度はこの事例集(案)ワークシートでやってみてはどうか。全部はあてはまらないかもしれないが、「もりの学舎ようちえん」のプログラムの一つをあてはめると子どもにどんな力が付いてといった、評価シートにもなりうる。評価シートがイコール PR シートに代わる。自分たちが実際にシートを作成して、シートの有効性を伝えないと伝わらない。「あいち未来クリエイト部」で活用できればと思う。</p>
千頭会長	それぞれの県の事業について、事例集(案)ワークシートを上手く活用していくことを考えていきたい。
新海委員	「もりの学舎ようちえん」は「体感する力」、「プラザ環境学習講座」は「理解する力」となっている。事例集(案)ワークシートを活用すると、今回は「体感する力」の育みであり、次は「理解する力」を育む内容を加えてプログラムづくりをしよう、と考えながらすすめることができる。そういった形でこのワークシートの活用も是非して欲しい。
松岡委員	協議会委員として県の環境学習事業に関り、大変勉強になった。新海委員の発言のように、こういった形でまとめて整理していくことが次のステップにつながっていくので、是非活用していただきたい。

<p>岩崎委員</p>	<p>今この場で議論をしていること以上に、もうすでに取り組みられていることは多い。いかにコーディネートをしていくかが広がりをつくるのに大事だと思う。</p> <p>この「五つの力」は、教育の世界でも環境にとどまらず使っており、全校集会や文章で伝達する機会など等に使っている。今の流れの中で、この「五つの力」を育む取組は進めていくべきである。</p> <p>また、高校生は、これまでの経験値がないだけに刺激を受けたらものすごく成長することを今感じている。探究活動を始めて、一旦はまったらずごく伸びる。変革を生み出す、大人のレベルを超えた子が生まれていく。</p> <p>自分が地域で会長をやっていると感じるのは、高齢の方々は経験値が高いので知識量が多い、自分たちがやってきたという自信があるので、それをワークシートにすることは大変難しい。高齢者が変わらないと地域は変わらない、また、若い人と高齢者ではパターンが違い、人によってはまる刺激も異なるので、どうやっていくのか課題。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>「行動する人づくり」が大変大事であると思う。新海委員の次へのステップという意見もあったので、行動することにつながる、やっぱりやってよかったなという思いをそれぞれの方が持てることが大事。学びの中で、行動に向けてこんなことを学んだら良かったなど。行動したらこれやって良かったという思いが重なっていくことが大事と考える。</p> <p>自分がやった行動が次にどうつながるかの見通しを若い人たちに持ってもらえると、次はこれに向けてがんばろうと次の行動につなげていくエネルギーになるのかな。</p> <p>事例集(案)も是非多くの人たちの行動につながるという思いを持っている。</p>
<p>千頭会長</p>	<p>生涯学習はまちづくりの担い手を育てていることが目的であり、趣味の講座ではないと。環境面でもそう思う。</p>
<p>山田委員</p>	<p>幼稚園・小学校・中学校教員向けに毎年発行している「教員研修の手引」の中で、環境教育に関する内容を掲載しており、2019年度は愛知県環境学習等行動計画2030について書いていただいている。学校現場では、(環境教育について)どんな情報があるのかを知りたいと思うので、情報を色々な形で伝えていくことが大切だと思う。</p> <p>事例集(案)やecoティーチャーは学校現場の教員にはとてもよいものだと思う。環境学習が大切であることは学校では認識しているが、学校現場ではやるべきことが多く、時間がないというのが悩み。その中で4年生の社会科では水やごみについて学習するので、ecoティーチャーの水やごみの講座は授業の一環で使ってみようかなという教員も多いと思われる。活用して、よかったという声があれば、徐々に広がっていくのではないかなと思う。私達も周知等でお手伝いできればと思う。</p>

千頭会長	総合教育センターで説明する時間ができたらと思う。大鹿先生が講師となって。
事務局	総合教育センターへは、新年度に改めて相談する予定。
篠田委員	岩崎委員の発言のとおり、現場はみんなかなりがんばっている人がいるが、その活かし方がわかっていない。4月に入ると市内の幼稚園の親子でと300人が2回くる。300人をまとめてやろうと思うとスタッフがいる。一緒に回るスタッフではなく、子どもたちに環境学習を伝えられるスタッフが10人くらい必要。今回 eco ティーチャーを研修に出していただけると、即戦力に育ってもらえるのではないか。
千頭会長	一年間にわたって検討してきた事例集が、サポートブックとしてようやく生まれつつあるので、使い方も含めて次年度に展開をしていけたらと思う。
千頭会長	議事については以上とする。